

平成24年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・いもち病（No.5）

平成25年度のイネいもち病におけるストロビルリン系薬剤の使用方針と防除対策について

平成24年11月2日

鳥取県病害虫防除所

本年度、山口県等において、ストロビルリン系薬剤感受性が低下したイネいもち病菌（以下、ストロビルリン系薬剤耐性菌）が発生しました。

水稲用のストロビルリン系薬剤の成分には、オリサストロピン（嵐）、アゾキシストロピン（アミスター）およびメトミノストロピン（オリブライト、イモチエース等）があり、これらを含む剤はいずれもイネいもち病の主力防除剤です。

そこで、鳥取県におけるストロビルリン系薬剤耐性イネいもち病菌の発生状況、平成25年度の本剤の使用方針およびイネいもち病の防除対策を示しますので、今後の参考にして下さい。

1 ストロビルリン系薬剤耐性菌の発生状況

(1) これまでに病害虫防除所が行った巡回調査において、ストロビルリン系薬剤耐性菌の発生が疑われるような事例は確認されていない。

(2) JA全農および関係農薬メーカーが行った薬剤感受性検定の結果、平成24年に採取された県内のいもち病サンプル（35点：採種ほを含めた県下全域から採集）は、すべて陰性であった。

2 平成25年度のストロビルリン系薬剤の使用方針

(1) 薬剤感受性検定の結果がすべて陰性であったことから、平成25年度のストロビルリン系薬剤の使用は支障ないと考えられる。

(2) 耐性菌の発生リスクを低減させるため、本系統薬剤の使用は年1回とする（主なストロビルリン系薬剤は表1～3参照）

オリサストロピンを含有する育苗箱施用剤（嵐プリンス粒剤10等）の使用ほ場では、出穂期前後に他系統の薬剤で必ず穂いもち防除を行う。

(3) 本県産種子がストロビルリン系薬剤耐性菌によって汚染された場合、広範囲で耐性菌が発生する恐れがあるため、採種ほ場およびその周辺地域ではストロビルリン系薬剤を使用しない。

3 平成25年度はいもち病防除対策の方針

(1) 県内におけるストロビルリン系薬剤耐性菌の発生リスクを低減させるため、上記の他に以下の対策を行う。

ア 苗いもちの発生を防ぐため、は種時の床土消毒剤にベノミルを含有する剤（ダコレート水和剤、ベンレート水和剤等）を使用する（表4参照）。又は、育苗箱にカスガマイシン剤（カスミン液剤等）を覆土前処理する。

イ 県外産種子を使用する場合、ストロビルリン系薬剤耐性菌が発生している県およびその隣接県産種子の使用を控える（公的機関で実施する品種試験、該当県以外から種子の入手ができない場合等は除く）。なお、県外の耐性菌の発生状況の詳細は、病害虫防除所または関係指導機

関に問い合わせる。

ウ ストロビルリン系薬剤を使用したほ場では、いもち病の早期発見・早期防除に努める。なお、本系統薬剤の防除効果の低下が疑われる場合は、速やかに病害虫防除所または関係指導機関に連絡する。

(2) いもち病の発生を最小限にとどめるため、基本的な防除対策も徹底する。

- ア 種子更新、塩水選、種子消毒を徹底する。
- イ 苗床の周辺に、伝染源となる罹病わら、罹病もみ等を放置しない。
- ウ 苗いもちが発生した場合、発病苗を本田に持ち込まない。
- エ 補植用苗は早期に取り除く。
- オ 過大な窒素施肥は控え、施肥設計に基づいた適正な施肥に努める。
- カ 薬剤を使用する際は、規定量の遵守および均一散布に努める。

(3) ストロビルリン系薬剤耐性菌の発生状況を把握するため、関係機関が連携してモニタリング調査の強化に努める。

4 ストロビルリン系薬剤の代替剤について

(1) 無人ヘリ防除体系におけるアゾキシストロピンを含有する剤(アミスターエイト等)の代替剤は下記のとおりである。

- ア 穂いもちに対する防除効果を重視する場合
既存のいもち病防除成分を含有する各種薬剤とバリダマイシン剤(バリダシンエアー)の混用。
- イ ドリフト対策を重視する場合
チオファネートメチルを含有する剤(トップジンMゾル等)とバリダマイシン剤(バリダシンエアー)の混用(チオファネートメチルを含有する剤を散布した稲わらは、家畜の飼料として使用しないこと)。

(2) その他の代替剤の詳細な情報が必要な場合は、病害虫防除所または農業試験場に問い合わせる。

5 その他

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守し、周辺の住宅や他の農作物へ飛散しないよう、十分注意すること。

表1 主なストロビルリン系薬剤(育苗箱施用剤)

農薬名	成分名
嵐プリンス箱粒剤10	オリサストロピン
嵐ダントツ箱粒剤	オリサストロピン
嵐スタークル箱粒剤	オリサストロピン
アミスタープリンス粒剤	アゾキシストロピン
アミスターアドマイヤー箱粒剤	アゾキシストロピン

表2 主なストロビルリン系薬剤(本田粒剤)

農薬名	成分名
嵐スタークル粒剤	オリサストロピン
嵐キラップ粒剤	オリサストロピン
オリブライト粒剤	メミノストロピン
オリブライト1キロ粒剤	メミノストロピン
オリブライトパック	メミノストロピン
オリブライト250G	メミノストロピン
オリブライトスタークル1キロ粒剤	メミノストロピン
イモチエース粒剤	メミノストロピン
イモチエース1キロ粒剤	メミノストロピン
イモチエースキラップ粒剤	メミノストロピン
イモチエーススタークル粒剤	メミノストロピン
イモチエーススタークル1キロ粒剤	メミノストロピン
イモチエースリンパー粒剤	メミノストロピン
イモチエースリンパー1キロ粒剤	メミノストロピン
イモチミン粒剤	メミノストロピン

表3 主なストロビルリン系薬剤(本田水和剤・無人ヘリ剤)

農薬名	成分名
アミスターエイト	アゾキシストロピン
アミスタートレボンSE	アゾキシストロピン
アミスターアクタラSC	アゾキシストロピン

表4 床土消毒に使用する薬剤の例

現行	H25年度
ダコニール1000 (ダコニール粉剤)	ダコレート水和剤
ダコニール1000 + タチガレエースM液剤 (ダコニール粉剤) (ダチガレエースM粉剤)	ダコレート水和剤 + タチガレエースM液剤
タチガレン液剤 (タチガレン粉剤)	ベンレート水和剤 + タチガレン液剤

(注1) タチガレン液剤(粉剤)とTPNを含有する剤(ダコニール1000、同粉剤及びダコレート水和剤)との同時あるいは近接施用は薬害の恐れがあるので、これらの剤を併用する場合は、7日程度の間隔をおく。

(注2) ダコレート水和剤は、製剤の性質上水に溶けにくいいため、調製する際に注意を要する。